

【小学校第6学年の実践】

1 主題名

公正、公平にふるまうことの大切さ【C 公正、公平、社会正義】

2 教材

願い 留岡 幸助（北海道版道徳教材（小学校高学年用））

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

公正、公平とは、私心にとらわれず誰にも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることである。法やきまりに反する行為と同様に、自他の不公正を許さない断固とした姿勢をもち、集団や社会の一員として力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうとする努力が重要である。

第6学年の指導に当たっては、社会正義の実現は決して容易ではないことを自覚させ、身近な差別や偏見に向き合い、公正で公平な態度をとることを考えさせることが大切になる。不正な行為を絶対に行わない、許さないという断固たる態度を育て、社会正義の実現について考え、自覚を深めようとする道徳的心情を育てていきたい。

(2) 児童の実態【児童観】

社会正義の実現について考え、自覚を深めようとする道徳的心情を育てるために、道徳科以外では、次のような指導を行っている。

①総合的な学習の時間「福祉について考えよう」

公正、公平の道徳的心情を育てるために、第5学年の総合的な学習の時間で「福祉について考えよう」の指導を行っている。福祉行政について深く理解するとともに、様々な立場の人が福祉の仕事に誇りをもって働いていることに気付くことができた。また、自分たちでもできる福祉活動として、赤い羽根共同募金への協力など、その意義を理解した上で児童会を中心に活動に参加することができた。今後は社会の一員として、誰もが公正、公平に振る舞うことのできる社会実現を目指すために自分たちができることを深く追究できるように指導する必要がある。

②特別活動「学級活動・友だちを大切に」

いじめの未然防止をするために、学級活動（2）の題材「友だちを大切に」の指導を行っている。つかむ段階では、アンケートを基に児童の問題意識を高める。その後、どんなことが原因で友だちとトラブルになるのか、その原因を追究し、みんなで解決方法を話し合う。話し合いの後、意思決定を行わせ、「個人目標」を決定させ、その目標の実現に向けて定期的に振り返りの時間を設け、実践意欲の継続化を図った。

「どのように友だちと関わるか」を考える活動を通して、自分自身の考えをしっかりともち、同調圧力に流されないで自分の意思を強くもち、考えたり行動したりすることができるようになってきた。しかし、学校生活の外に目を向け、社会的な差別や不公正さなどの問題について考える機会は少ないので、社会的な問題を提示し、その解決に向けて話し合わせる指導を社会正義と関連付けて行う必要がある。

(3) 教材について【教材観】

社会正義の実現について多面的・多角的に考えさせるために、「父の『士族の子に歯向かうのは町人のすることではない』という言葉に幸助はどんな気持ちを抱いたのか」、「周囲の反対を押し切ってまで北海道の監獄へ赴いた幸助には、どんな思いがあったのか」という発問を通して、人への差別について考えさせるとともに、「北海道に家庭学校をつくることで幸助はどんな気持ちをもったのだろうか。」（幸助の生き方から学んだことは）という先哲の考えについて対話を促す発問を通して、幸助の家庭学校設立に込めた願いについて話し合わせる。そこから幸助が願う公平、公正に視点を当て、平等な社会を実現するために、どのような態度で人と接することが大切かを考えさせ、価値理解や他者理解を深めさせる。

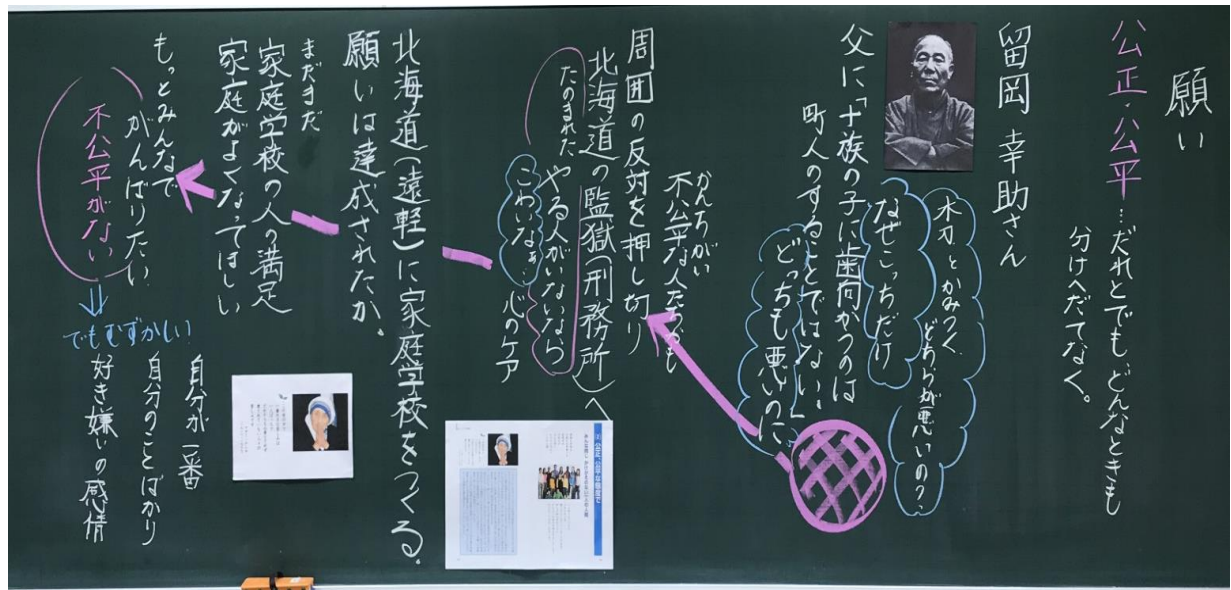
4 ねらい

留岡幸助の生き方に触れることを通して、誰に対しても公正、公平に振る舞うことの大切さに気づき、偏見や差別のない社会の実現に努めようとする心情を育てる。

5 学習指導過程

| | <ul style="list-style-type: none"> ●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導上の留意点 ■評価 | <p>「考え、議論する道徳」に向けた工夫</p> |
|--------|---|--|--|
| 導 入 | <ul style="list-style-type: none"> ● 周囲の人たちとの接し方について話し合う。 ○ 普段、周囲の人たちと接する場合、気を付けていることがありますか。 ・相手が嫌な思いをしない言動を心掛けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして、今までの自分自身の周囲の人たちとの接し方について想起させる場を設ける。 | <p>【工夫①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの周囲の人たちとの接し方について振り返らせ、本時で考える道徳的価値についての興味・関心を喚起させる。 |
| 展 開 | <ul style="list-style-type: none"> ● 教材「願い」を読み、話し合う。 ○ 父の「士族の子に齒向かうのは町人のすることではない」という言葉に幸助はどんな気持ちを抱きましたか。 ・悪いのは武士の方なのに町人だからという理由は納得がいかない。 ・先に手を出してきたのは相手の方なのにどうして自分だけが怒られるのか。 ・なぜ、身分の違いだけで差別がおこるのだろうか。 ○ 周囲の反対を押し切ってまで、北海道の監獄（刑務所）へ赴いた幸助には、どんな思いがあったのでしょうか。 ・どんな人も幸せになるべきだ。 ・その人たちを救いたい。 ・自分にできることを取り組んでいきたい。 ◎ 北海道に家庭学校をつくることで幸助はどんな気持ちをもったのでしょうか。（幸助の生き方から学んだことは、どのようなことですか。） ・願いが達成されてうれしい。 ・これからどんな人も、家庭のようなあたたかさを感じてほしい。 ・公正・公平な社会の実現を目指したい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・同じ人間なのに、身分の違いで差別を受けることの理不尽さについて考えさせる。 ・登場人物の少年時代の理不尽な体験から、人としての在り方や、誰に対しても公正、公平に接することの大切さについて考えることができるようにする。 ・どういう立場の人であっても、他者を尊重することの大切さや、誰もが社会の一員として生活できることについて多面的・多角的に考えさせる。 | <p>【工夫②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幸助の家庭学校設立に込めた気持ち」を問う中心的な発問から、他者を尊重することの大切さや社会の一員として生きる大切さについて多面的・多角的に考えさせる。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 公正、公平について自分との関わりで考える。 ○ どんな人間も平等で、明るく偏見のない社会にしていくために、あなたはどんなことが大切だと思いますか。 ・どんな人にも、同じ態度で接する。 ・間違っている人がいたら、逃げないで、正しいことをしっかり伝える。 ・周りに流されないよう、自分の意志を強くもって考えたり、行動したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・交流を通して友達の考え方のよさに気づき、差別や偏見のない社会を築くために、大切なこと、自分ができることに気付くことができるようにする。 ■ 誰に対しても公正、公平に振る舞うことの大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。 | <p>【工夫③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸助の生き方から、公正・公平な態度で人に接することの大切さを自分事として考えさせ、今後、どのような気持ちをもって人と接していく必要があるかを深く見つめさせる。 |
| 終 末 | <ul style="list-style-type: none"> ● 本時の学習を振り返り、学んだこと、考えたことについて交流する。 ※マザーテレサの生き方（私たちの道徳小学校5・6年P132～P133）を紹介し、公正・公平に人と接することの価値を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・差別や偏見のない社会の実現に努めようとする実践意欲が育まれるようにする。 | <p>【工夫④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを実感し、今後の自分自身の生き方を深く見つめさせる。 |

6 板書



7 ノート・ワークシート（中心的な発問への児童の記述）

- ・家庭学校に通う人が満足することができたとしたら、自分も幸せだ。
- ・子どもたちがここで受けた愛情を、大人になってから、他の人にあげられるようになってほしい。
- ・ここに通う全ての人が、家庭のような温かさを感じてほしい。

【授業実践を振り返って】

- 少年時代の理不尽な体験や、北海道に家庭学校を設立しようとした幸助の気持ちを考えさせる（幸助の気持ちに自我関与させる）ことで、人は誰でも平等であり、公正、公平でなければならないこと、よりよい社会を実現させるために何が必要であるかを深く考えさせることができました。
- どういう立場の人であっても、他者を尊重することの大切さや誰もが社会の一員として生活できることについて考えることができるよう、展開後半では、「どんな人間も平等で、明るく偏見のない社会にしていくために、あなたはどんなことが大切だと思いますか」と問いかけました。

児童からは、

- ・どんな人に対しても同じ気持ち、態度で接すること
- ・困っている人に対して、積極的に声掛けをして、助けてあげること
- ・お互いに思っていること、考えていることを言い合える関係づくり
- ・相手のことを思いやる心

などの意見が見られ、どんな人にも公正、公平に接するためには、相手の立場を理解したり、互いに考えていることを意見し合う良好な人間関係を構築したりすることが大切であることを話合いにより深めていくことができました。

- 終末において、貧困に苦しんでいる人たちに温かい手を差し伸べたマザーテレサの生き方を紹介することにより、公正、公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めることの大切さや難しさを実感するとともに、今後の自分自身の生き方を深く見つめていくことができました。